第２日クロージングーシンポジウム要約

国際基督教大学教授 国連大学客員教授
高橋一生

１．グローバリゼーションの含意として、パートナーシップとシェアリングが、いろいろな局面で、今まで以上に重要になっている。

（１）「若者の声」で、仕事のやりがいに関し「達成することの満足感」、さらに「人々の輪が広がり、人とのつながりで自分自身が豊かになる」との発言があった。仕事を通じてのシェアリングとパートナーシップが重要。

（２）いろいろな形で指摘があったが、教育・訓練・雇用を別々の課題ではなく、融合させ、パートナーシップの下に、グローバリゼーションがもたらす課題に対処していかないと、若者の雇用問題は解決不可能。

（３）成功例 のみでは 軽佻浮薄になりかねず、失敗例についてもその原因を探ること等が重要で、両方の共有が必要。そのためには、国際機関特にＩＬＯ、企業、労組、政府、研究者など関係者のパートナーシップが不可欠。

（４）「高年齢者の雇用を重視するのか、若者の雇用を重視するのか」という質問に関し、二者択一ではなく両方をどう組み合わせるかが問題だと回答があったが、若者に必要なのは学ぶことで、教えるものを持っているのは高年齢者で、どういう風に組み合わせるかが重要。

２．若者は、社会学的な視点からは多様－多分文学者にとってもーであるが、経済学者からみるとかなりパターン化しており、均一の問題が各社会にあるという指摘があった。社会政策では多様なメニューが必要だが、経済政策では、マクロ・ミクロの両面から整合性のある追求が必要だとの認識がある。多様な社会政策のメニューと整合性のある経済政策、さらにその両方が統合された政策をそれぞれの社会でどう追及するべきか課題となっている。

３．グローバリゼーションは、企業の従業員に対する教育訓練投資を減少させ、日本のように企業が訓練投資を行っていた社会でさえ投資が減少すると指摘された。しかし、教育制度自体は大きく変わらないであろう。企業は訓練しない、教育制度自体は大きくかわらないという状況下で、どうやってそのギャップを埋めていくか、社会、政府その他の施策等を通じていろいろな解決法を探るのが、グローバリゼーションの下での各国単位の競争になる。

４.若者の仕事の将来は､市場グローバリゼーションの下では今まで以上に不安定になる。社会状況の不安定さと若者本来の不安定さの相乗効果で、若者は非常に不安定になっている、不安定さからＮＥＥＴという形で逃げる者、テロリズムという極端な形をとる者もある。拡大した不安定さをどうやって生産的なダイナミズムに転換させていくかが課題。

５.「若者の声」では、女性の結婚、出産を含め、将来の不安定さに関し、プロとしてやっていければ大丈夫という回答が聞かれた。おとなが線を引いた生涯教育ではない、若者自身が回答を探す必要がある。今までのキャリアプロセスはただ１つ、男性の年齢に即したキャリアプロセスだった。それに対し、緒方貞子氏は、70 代半ばにＪＩＣＡ理事長に就任され、ご自身について､「女時間を生きている」という表現をされた。子育てや介護などがすべて終わり、仕事に専念できる状況になってＵＮＨＣＲの代表になられた。若者も複数のキャリアパターンという回答を出すのかもしれない。生産活動に吸収される方法を模索するのかもしれない。我々が設定する生涯教育のカリキュラムは、若者が受け入れにくいものになりがちで、若者を信用するシステムにしていいのではないか。

６.「グローバリゼーションと若年雇用」というテーマに関し、１つ明確になった。雇用の主たる担い手である企業、社会の大きな枠組みを設定する政府、労組、若者自身、学者も「これからの世の中はこうだ」と描ききれず、皆が暗中模索である。わからないことが多い中で、2 日間のシンポジウムは非常に重要であった。何がわかり、何がわからないか確実にしながら、市場中心の高速軌道のグローバル化から振り落とされないで、それを御するような知恵を少しでも身につける、そのためには、皆が部分的な知見を持ち寄って今回のようなシンポジウムを繰り返し行うことが重要である。